



地域支援センター「しせい」



第9号 福島県立相馬支援学校地域支援センター通信【令和3年3月8日発行】

相馬支援学校が鹿島区に新築移転し、1年が過ぎようとしています。コロナ禍で休校措置がなされるなど思い通りにはならないことも多かった1年でしたが、児童・生徒の皆さんはすっかり新校舎に慣れ、自分達の「居場所」にすることができたようです。

地域支援センターも一部屋いただき、必要に応じて支援会議やケース会議、教育相談など実施してきました。また、特別支援教育に関する理解啓発のための情報発信基地になろうと務めて参りました。今後も「人をつなぐ、支援をつなぐ」ことを目標に、気軽に立ち寄っていただける場所を目指していきたいと思います。

「インクルと学力向上は相容れないのか？」講演会 質疑応答

2月5日、桃井第一小学校統括校長 高橋 浩平氏により実施されました講演会（「杉並四小におけるインクルーシブ教育の実践～共に学び共に支え共に創る～」）に際し、質問事項がありました。講師の高橋校長先生よりご回答いただきましたのでご紹介致します。



Q「以前、山形大学 三浦光哉教授の指導を受けた際、山形県の戸沢村を例に、『通常の学級における特別支援教育』により、学力向上に大きな成果が見られたことを知りました。（LDに対して予防的な指導をするといった内容だったと記憶しております。）以降、※同時処理・継時処理の学び方の違い等を学びながら、拙くはありますが指導の実践を行っています。今回、インクルーシブ教育と学力向上のバランスをとることは難しいとされていましたが、その点について、具体的課題や実践等がありましたら教えていただければ幸いです。」（中学校の先生）

※同時処理…情報の全体を捉えてから、部分を関連づけて理解する方法

※継時処理…情報を一つずつ順序立てて理解する方法



A「三浦教授の取組は聞いたことがあります。早期教育の段階で必要な支援をしていくと、その後の理解に違いが出てくるということで、それはそれであると思います。『インクルーシブ教育』は多様性を認め、個別的に学習を保障していく、という流れの中で、『学力向上』とどう結びつけるのか。『多様性を認め、個別に』などとやっていたら、とてもじゃないけど単元が終わらない、分からなくてもとにかく授業を進めるしかない、と通常の学級の先生方の大半は思うのではないのでしょうか。そういう意味で『バランスは難しい』と説明しています。『学力をつける』ことと『インクルーシブ教育』が矛盾してもいけないと思うし、『インクルーシブ教育』を進めると『学力がつかない』となってもいけないと思っています。ですから、性急にインクルーシブ教育を進める、という流れは、どうしても反発を招くのではないかと感じています。」

なお、講師の高橋先生が現場の先生方に向けて発行された「インクルーシブ研修だより」（年間70号を超えています。）をいただいておりますので興味のある方はお声かけください。高橋先生の特別支援教育への熱い思いに奮い立たせられます。

キーワード「できないをほったらかしにしない教育」

◎ お気軽にご相談ください。
しせい専用電話080-7241-7351
（平日9時～16時）大和田 布佐子